〔特集〕

# 9.11総選挙報道と映像ジャーナリズム
## ―2005年９月12日夜のTVニュース番組の分析を手がかりにして―

鈴木みどり＊
西村　寿子＊＊

空前の自民党圧勝という結果に終わった2005年９月11日の総選挙において，テレビはどのような役割を果たしただろうか。この問に取り組むことは，映像時代の今日，テレビに求められるジャーナリズム機能とは何か，また，そうした機能をどのように果たすことができるかについて，解明する手がかりを得ることへとつながるだろう。そこで筆者らは，ともに学んでいる大学院生サリー・マクラーレン，NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所とともに急遽，研究プロジェクト「9.11総選挙報道と映像ジャーナリズム」を立ち上げ，翌日（９月12日）夜の各局TVニュース番組を対象にして，メディア・リテラシーのアプローチによる分析調査を行なうことにした。本稿は，その分析結果についてまとめた最初の報告である。

本調査では，ジャーナリズムの根幹を成す理念といえる「市民の知る権利に応える公正な報道」という観点から，主として次の３点に焦点をしぼって分析を行なった。すなわち，⑴各番組における総選挙報道の構成と時間量，番組に招かれるゲストとその発言内容，番組で取り上げる政治家や選挙区はどうだったか，⑵〈小泉映像〉および女性候補者はどう構成されているか，⑶市民（有権者）をどう捉えているか。その結果，いずれの点においても，有権者が１票を投じる際の重要な情報であるはずの総選挙報道の総括としては多様性を欠き，大きな偏りがみられることが明らかになった。

今後，さらに次の諸点で分析を続けていく必要がある。すなわち，⑴〈小泉映像〉，女性候補者，有権者の構成について，使用されている映像言語の観点からより詳細に分析し，⑵それらが何を意味しているかをテレビというメディアの特性において明らかにし，⑶総選挙報道においてテレビが果たした役割を「市民の知る権利に応える公正な報道」という観点から解明することである。その上で，テレビが映像ジャーナリズムとして有効に機能するためには，現状をどう変革する必要があるかを追究していく。

**キーワード：メディア・リテラシー，映像言語，映像ジャーナリズム，知る権利，公正な報道，2005年総選挙報道，TVニュース分析，〈小泉劇場〉，〈小泉映像〉**

### はじめに

2005年９月11日に実施された第44回総選挙は，小泉首相率いる自民党が「郵政改革」に焦点をしぼって選挙戦を展開した結果，単独過半数の241議席を大きく上回る296議席を獲得し，公明党の31議席を加えると自・公連立政権で衆議院の３分の２を超える勢力になった。自・公連立政権で衆議院の３分の２を超えたことによ

＊立命館大学産業社会学部教授
＊＊立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程

って，今後，すべての法案は参議院で否決されても衆議院で再可決できることになるという新たな政治状況が生まれた。

今回の選挙においてメディアはいかなる役割を果たしただろうか。言うまでもなく，ジャーナリズムとしてのメディアによる報道のあり方は，市民がさまざまな社会的課題について自ら判断し行動するという民主主義の根幹にかかわる重要な問題である。とりわけ，総選挙報道は有権者が一票を投じる上で重要な情報源となる。そうであるなら，報道においては「市民の知る権利に応える公正な報道」が貫かれていなければならないのは言うまでもない。しかし，2001年７月29日に行われた参議院通常選挙の際にも指摘されたことだが[1]，今回の総選挙報道でも，選挙中から「小泉劇場」と言われたように，テレビの画面には小泉首相の映像があふれていた。集中的な小泉映像の構成は，今回の総選挙ではなにを意味していたのだろうか。小泉首相は「郵政民営化法案を国民に問う」として，同法案に反対した自民党議員を「造反議員」と規定し，その選挙区に新たな候補者を送り込んだ。郵政民営化を選挙の焦点とした自民党の戦略。テレビはこの戦略に対して，果たして，取り上げる選挙区や政治家という点で偏りのない報道をすることができただろうか。また，有力な「造反議員」に対して立てられた対立候補の多くが女性であったことから，テレビ画面にはこれまでになく多くの女性候補者が登場した。だが，メディアはこれらの女性候補者をどのように構成して提示しただろうか。「市民の知る権利に応える公正な報道」という観点と同時に，メディアはジェンダーの「平等と公正」の観点から検証される必要があるだろう。

今回の総選挙結果を受けて，立命館大学社会学研究科メディア・リテラシー研究プロジェクトでは，NPO 法人 FCT メディア・リテラシー研究所とともに分析チームを立ち上げ[2]，総選挙の翌日にあたる９月12日夜のニュース番組を対象に，メディア・リテラシーのアプローチによる分析調査を行うことにした。分析の焦点は，上述した問題意識から，ジャーナリズムの根幹をなす理念「市民の知る権利に応える公正な報道」という観点からテレビの総選挙報道を検証することにおいた。具体的には，⑴番組全体にしめる総選挙報道の構成と時間量，番組に招かれるゲスト，取り上げる政治家や選挙区⑵〈小泉映像〉および女性候補者がどう構成されているか⑶有権者をどう構成しているか，などの点に絞り，９月12日夜のニュース番組を分析した。

９月12日夜のニュース番組を分析対象とするのは，主として次の二つの理由による。その一つは，各局の主要なニュース報道といえば，それは，やはり，夜のニュース番組であることだ。理由の二つ目としては，9.11の投開票の結果，自民・公明が３分の２も議席を獲得したことが明らかになってからほぼ１日経過した時点で放送されたニュース番組である，という点である。選挙結果に対して，新聞各紙による報道をはじめ様々な評価が行なわれ始めており，この時点で，テレビとしても自らが果たしてきた役割を振り返り，総括するかもしれないと予想されたからである。

メディアは，新聞であれテレビであれ，自らのパフォーマンスを含めて，世の中の動きを深く見つめ，論評するジャーナリズムとしての機能を持っている。総選挙報道においてもテレビメディアが社会で果たす役割を自覚し，どのように自らの役割を批判的に振り返るのかを検証

する必要がある。なぜならば，テレビがジャーナリズムとしての機能を十分に果たしているかどうかは，有権者の政治参加の権利が尊重されているかどうかという民主主義の存立に関わる問題と密接に関係するからである。

なお，本稿は，立命館大学社会学研究科メディア・リテラシー研究プロジェクトとして行なっている「9.11総選挙報道分析」調査研究から，現時点で明らかになっている分析結果について報告するものである。詳細な調査報告はいずれ稿を改めて行なう予定である。

## Ⅰ．分析対象と調査方法

### １．分析対象番組

今回の調査では，総選挙投開票日の翌日にあたる2005年９月12日の夜に放送された全局のニュース番組を分析対象とした。その番組名と局名，放送時間は，次の通りである。

・テレビ朝日系「報道ステーション」　21：54–23：10
・日本テレビ系「今日の出来事」　22：54–23：40
・NHK「ニュース10」　22：00–22：55
・TBS 系「ニュース23」　22：54–23：50
・フジテレビ系「ニュースジャパン」　23：45–24：07

### ２．調査の手順と調査内容

分析対象とした各局の番組を録画し，そのVTR をみながら「ニュース番組の構成」記入シートを使って各番組の構成の流れを分析する。その際，ニュース項目の内容，時間量，CM 時間量を書き出す。次に，完成した「ニュース番組の構成」記入シートを使い，各番組をつぎの観点から分析する。

⑴各局の番組で，総選挙報道を取り上げる時間量と全番組時間に占める割合（%）。
⑵各局の番組で，総選挙報道のニュース項目で取り上げられる政治家，インタビュー，会見の有無。
⑶各局の番組に招かれるゲスト（この報道に限ってスタジオに招かれてコメントする専門家，政治家），発言する内容，時間量。
⑷〈小泉映像〉はどう構成されているか 。

総選挙報道のなかで小泉首相の映像がどのように記号化され再提示されるかを次の分類に沿って分析する。

〈小泉映像の分類〉
ａ）自民党開票センター
ｂ）ポスターなどの印刷物
ｃ）選挙演説
ｄ）９月12日記者会見
ｅ）自民党・公明党与党会議
ｆ）靖国神社参拝
ｇ）その他（具体的に書き出す）
（クローズアップのある場合は CU とする。）

⑸「まとめのドキュメント」で取り上げられる政治家と選挙区。

各局のニュース番組には，総選挙を振り返るニュース項目としての「まとめのドキュメント」がある。この「まとめのドキュメント」で取り上げられる政治家（所属政党）と取り上げられている選挙区を分析する。

⑹女性候補者（女性議員）はどう構成されているか。

各番組に登場する女性候補者（女性議員）を属性／所属政党／登場する状況設定／映像／音声などの項目にそって分析する。

⑺「選挙結果に対する反応」はどう構成されて

いるか。

「選挙結果に対する反応」として登場する市民の声（街の声）を性別・年齢などの属性，登場する状況設定，映像と音声などの項目に沿って分析する。また，海外の反応もあわせて分析する。

## Ⅱ．これで政治的公正？

### １．各番組における総選挙報道の時間量

分析から，９月12日各局のニュース番組における総選挙報道の時間量は図表１の通りである。これを見ると，「報道ステーション」は番組全体の中で総選挙報道が56分28秒であり，総放送時間の77.5％となる。CM 時間量を除くと実に90.8％を総選挙報道にあてている。番組全体に占める総選挙報道の割合がもっとも低い「ニュース23」でも CM 時間量を除くと55.9％である。このように，投開票日の翌日の夜のニュース番組はいずれも，総選挙ならびにそれを受けた政局の流れを報道することに多くの時間を費やしている。このことは，視点を変えて言えば，世の中の動きを伝える他のニュースをそれだけ伝えていないことを意味している。

**図表１　９月12日の各局ニュース番組の総選挙報道：時間量と全体に占める割合**

| 放送局<br>番組名 | 放送時間 | 総時間量<br>（CM 時間量） | 総選挙報道に使われた時間量 | 番組全体に占める割合<br>（CM 時間を除いた割合） |
|---|---|---|---|---|
| テレビ朝日系<br>報道ステーション | 21：54-23：10 | 76分<br>（10分40秒） | 56分28秒 | 77.5％<br>（90.8） |
| NHK<br>ニュース10 | 22：00-22：55 | 55分 | 37分47秒 | 68.1％ |
| 日本テレビ系<br>今日の出来事 | 22：54-23：40 | 46分<br>（６分40秒） | 34分38秒 | 75.2％<br>（88） |
| TBS 系<br>ニュース23 | 22：54-23：50 | 56分<br>（６分35秒） | 26分30秒 | 47.0％<br>（55.9） |
| フジテレビ系<br>ニュースジャパン | 23：45-24：07 | 22分<br>（３分30秒） | 13分21秒 | 58.9％<br>（69.7） |

※ 番組は総選挙報道を取り上げた時間量の多い順に並べた。

### ２．各番組のゲスト

ニュース番組では大きな事件が起きると，そのテーマの専門家を招いたり，コメンテーターの見解を求めたりして，番組を構成する。９月12日のニュース番組でも各局は，スタジオにゲストを招いてコメントを入れながら構成している。各局が招いたゲストは図表２の通りである。

図表２から，「報道ステーション」「ニュース10」は安倍晋三自民党幹事長代理（2005年11月１日の内閣改造で内閣官房長官として入閣），「今日の出来事」は小池百合子環境大臣（自民党，11月１日の内閣改造で留任）をスタジオに招いて話を聞いている。しかも，ゲストの登場する時間は全番組時間のそれぞれ21.1％，30.8％，26.8％，となっている。

自民党の安倍晋三氏や小池百合子氏は総選挙後の内閣改造でも要職に抜てきされ，あるいは大臣に留任するという政権政党の中枢にいる人びとである。「報道ステーション」では古館キ

**図表２　９月12日夜のニュース番組のなかでスタジオに招かれたゲスト**

| 放送局<br>番組名 | 総選挙報道に使われた時間量 | スタジオに招かれたゲスト | ゲストの登場する時間量<br>（総選挙報道に占める割合％） |
|---|---|---|---|
| テレビ朝日系<br>報道ステーション | 56分28秒 | 岩井奉信（日大教授）<br>安倍晋三（自民党） | 10分30秒（18.6％）<br>12分７秒（21.1％） |
| 日本テレビ系<br>今日の出来事 | 34分38秒 | 小池百合子<br>（自民党） | ９分17秒（26.8％） |
| NHK<br>ニュース10 | 37分47秒 | 安倍晋三<br>（自民党） | 11分53秒（30.8％） |
| TBS系<br>ニュース23 | 26分30秒 | ジェラルド・カーティス<br>（コロンビア大学教授） | 11分19秒（42.7％） |

※ゲストが登場する時間量は、ゲストが登場するニュース項目の時間量とする。

ャスターが「安倍さんがポスト小泉ナンバー１ではないか」とか「政治家としての政治課題」について問い，安倍氏から「中長期的には憲法改正。集団的自衛権行使は現状でも可能」という回答を引き出している。「今日の出来事」では，小栗泉アナウンサーが小池氏に「公明党とあわせて与党が３分の２を占め，バランスを欠くことや暴走することはないか」と問い，「国民の目が向いている中で暴走することはない」という発言をさせている。

そもそもジャーナリズムには権力をチェックするという重要な機能があるはずである。にもかかわらず，投開票日の翌日の番組に政権政党の中枢にいる人物を招き，「暴走しないか」などという質問をするのは，テレビがジャーナリズムの機能を自覚していないか，あるいは最初から放棄しているかのどちらかではないか。そのような疑問を視聴者から投げかけられても当然といえるだろう。

「ニュース23」は政治学者のジェラルド・カーティス・コロンビア大学教授を招いた。なぜ，各局は，もっと有権者の立場に沿った専門家を招き，メディアが今回の選挙で果たした役割について問い直すことをしないのか，という疑問が出てくる。このことは，後述するように，番組がオーディアンスをどのように捉えているかという問題と深く関わっていると考えられる。

### ３．取り上げる政治家と選挙区

各番組は，「あの候補者この候補者 泣き笑いの舞台裏」（「報道ステーション」），「『造反組』『刺客』それぞれの熱きたたかい」（「今日の出来事」），「自民圧勝 与党で３分の２」（「ニュース10」），「当選ドキュメント 劇場の主役たちは」（「ニュース23」），「衆議院選挙 運命の9.11主役たちは」（「ニュースジャパン」）と題して，今回の総選挙結果を振り返るVTRドキュメント（まとめのドキュメント）を作成し，番組に挿入している。

指摘するまでもないことだが，９月12日夜の各局ニュース番組における総選挙報道で使用されているのは，それぞれの局が選挙期間中，投開票日，投開票日の翌日に収集した莫大な量の映像情報を取捨選択したものである。そうした映像情報をさらに凝縮して編集したものが

VTRによる「まとめのドキュメント」である。したがって，各局が何に焦点を置いて総選挙を報道してきたのか，また，この時点で総選挙結果をどう捉えているのかという一定の「見方」を提示しているとみることができる。

そこで，分析では「まとめのドキュメント」に登場する政治家（所属）と発言の有無，当落を番組ごとに書き出していった。その結果をまとめたのが図表３である。

**図表３　９月12日夜の各局ニュース番組における選挙報道「まとめのドキュメント」に登場する政治家数：政党別**

| 放送局 | テレビ朝日系 | 日本テレビ系 | TBS系 | NHK | フジテレビ系 |
|---|---|---|---|---|---|
| 番組名 | 報道ステーション | 今日の出来事 | ニュース23 | ニュース10 | ニュースジャパン |
| 放送時間帯 | 21：54-23：10 | 22：54-23：40 | 22：54-23：50 | 22：00-23：00 | 23：45-24：50 |
| ドキュメントの時間量 | 15分56秒 | ７分48秒 | ６分10秒 | ８分36秒 | ３分35秒 |
| 自民党 | 13（3） | 7（1） | 6（2） | 7（2） | 8（7） |
| 公明党 | 0 | 1（1） | 0 | 3（2） | 1（0） |
| 民主党 | 4（0） | 1（1） | 1（0） | 0 | 1（0） |
| 共産党 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1（0） |
| 社民党 | 4（1） | 0 | 3（1） | 0 | 3（0） |
| 国民新党 | 2（0） | 2（1） | 2（1） | 0 | 2（0） |
| 日本新党 | 2（1） | 1（0） | 1（0） | 0 | 2（0） |
| 新党大地 | 1（0） | 0 | 1（0） | 0 | 1（0） |
| 無所属 | 8（0） | 3（0） | 3（0） | 2（0） | 3（1） |
| 取り上げる政治家数計 | 34 | 15 | 17 | 12 | 22 |

※（　）内は発言のない政治家の数

**取り上げる政治家**

図表３から，「まとめのドキュメント」の時間量が最も長いのは「報道ステーション」で，取り上げる政治家も最も多く34人となっている。最も少ないのは「ニュース10」の12人である。

取り上げる人物の政党別分布を見ると，「ニュース10」が自民党と公明党，それに対する無所属候補者となっている。「報道ステーション」は相対的にどの党派も取り上げているように見えるが，自民党が13人と全体の38.2％を占めている。自民党以外では，国民新党，新党日本，無所属政治家６人を取り上げているが，国民新党，新党日本とも元自民党の有力議員で郵政法案に反対した人びとが結成したいわば「郵政反対党」であり，無所属８人の内６人も元自民党で郵政法案反対議員であることから，総選挙の焦点を「郵政改革」と捉えているといえよう。同様のことは「今日の出来事」「ニュース23」についても指摘できる。

また，いずれの局も，番組中に民主党の敗北と今後の民主党代表選についてのニュース項目を別に設けているためか，この「まとめのドキュメント」では民主党の政治家をほとんど取り上げていない。民主党は２大政党の一方であり，野党第１党であるというのに，その扱いの比重はあまりに低いというべきだろう。また，社民党については取り上げていない局が２局，共産党は４局が取り上げていない。結局，「まとめのドキュメント」は，自民党と自民党を出身母体とする「郵政反対党」および郵政反対議員の対立の構図で構成されているといえるだろう。

**取り上げられる選挙区**

「報道ステーション」で取り上げた選挙区数は20，「ニュース23」が７，「今日の出来事」と「ニュース10」が５である。「ニュースジャパン」は選挙区名をテロップ等で明示していなかったが，取り上げられている政治家の選挙区をカウントしたところ11であった。図表５は複数の局で取り上げた選挙区とその選挙区で取り上げた政治家の一覧である。

これを見ると，どの番組も非常に限られた選挙区を取り上げていることが分かる。図表４．に見られる東京10区，静岡７区，岐阜１区，岐阜４区，京都４区，愛知４区，広島６区は，いずれも郵政反対議員の選挙区に自民党本部の主導で候補者が送り込まれた選挙区である。また，すべての局が取り上げている東京10区，静岡７区，岐阜１区はメディアが「刺客」と呼ぶ女性候補者が送り込まれた選挙区である。富山３区は，いわば「反郵政法案」急先鋒の候補者の選挙区である。したがって，郵政法案以外の観点から取り上げられているのはわずかに北海道ブロック，近畿ブロック，新潟５区のみである。小選挙区法では全国11ブロック，300選挙区を定めている。「まとめのドキュメント」では，東北ブロック，南関東ブロック，四国ブロック，九州沖縄ブロックはまったく取り上げていない。もちろん，番組時間という制約があるからすべての地区を取り上げることは出来ないが，取り上げる選挙区も取り上げない選挙区もこれだけ各局で共通しているのを見ると，改めて放送における政治的公正とは何かが問われるのではないだろうか。

## Ⅲ．「小泉劇場」とは何か

### １．小泉映像の構成

2001年７月29日に行なわれた参院選開票報道では，NPO 法人 FCT メディア・リテラシー研究所が関西準キー４局と NHK 計５局の開票速報番組を対象に，有権者の視座から実証的に〈小泉映像〉の分析を行なっている。各番組の構成の流れを〈小泉映像〉に焦点をあてつつ分析した結果，いずれの局も「小泉人気」という捉え方で複数の特集VTRを事前に準備し，それらの VTR を開票速報に織りまぜ何度も放送するという構成であったことが明らかになった。また，番組では，自民党新人を後押しする「小泉人気」と他方で小泉首相と「抵抗勢力」との対立構図など，小泉首相を軸に選挙戦を構成し，見るものに好感を与えるような〈小泉映像〉が頻繁に用いられていることが分かった[3)]。

今回も，各局の「ニュース番組の構成」記入シートを用いてニュース項目ごとに〈小泉映像〉を下記の分類にそって分析した。

〈小泉映像の分類〉

ａ）９月11日，自民党開票センター（小泉首相が一人でボードにバラの花をつける場面。自

民当役員と共に花をつける場面など）

b）ポスターなどの印刷物（小泉首相の選挙用ポスター，マニフェスト，垂れ幕など）

c）選挙演説（小泉首相の選挙期間中の遊説場面。支持者に囲まれる場面など）

d）９月12日自民党本部での小泉首相の記者会見

e）９月12日自民党・公明党与党会議での小泉首相（連立政権維持を合意した会議）

f）小泉首相の靖国神社参拝

g）その他（たとえば，過去の映像など具体的に書き出す）

それぞれ クローズアップ（CU）のある場合はａ）CU，ｂ）CU などと記入する。

**図表４　９月12日夜の各局ニュース番組の総選挙報道で〈小泉映像〉がないニュース項目数と時間量**

| 放送局<br>番組名 | テレビ朝日系／<br>報道ステーション | 日本テレビ系／<br>今日の出来事 | NHK／<br>ニュース10 | TBS 系／<br>ニュース23 | フジテレビ系／<br>ニュースジャパン |
|---|---|---|---|---|---|
| 放送時間 | 21：54-23：10 | 22：54-23：40 | 22：00-23：00 | 22：54-23：50 | 23：45-24：50 |
| 総選挙報道ニュース項目数<br>（時間量） | 11<br>（56分28秒） | 12<br>（34分38秒） | 13<br>（37分47秒） | 8<br>（26分30秒） | 8<br>（13分21秒） |
| 小泉映像がないニュース項目数<br>（時間量） | 3<br>（４分15秒） | 1<br>（２分20秒） | 3<br>（11分17秒） | 2<br>（２分56秒） | 1<br>（28秒） |

分析の結果，図表４に見るように，各局の夜のニュース番組では，総選挙関連のニュース項目ではほとんどと言ってよいほどすべてのニュース項目で〈小泉映像〉が使用されている。

各局の番組で〈小泉映像〉が見られない共通のニュース項目は，民主党代表選くらいである。各局で共通して使用されている〈小泉映像〉は次のような内容である。①９月11日の自民党開票センターで小泉首相がボードに赤いバラをつけるシーン。この映像では，ズームイン，クローズアップなどのカメラワークが繰り返し使用されている。同じ場面で自民党役員とともに赤いバラをつける映像も多用されている。②９月12日の自民党本部での記者会見。この場合もズームイン，クローズアップを多用している。

各局の特徴としては，「報道ステーション」では，記者会見での小泉首相の目と眉の超クローズアップを使用。「今日の出来事」では，スタジオに小泉首相と岡田代表の巨大な写真を数枚ずつ配置。スタジオでゲストに招いた小池百合子氏に話を聞く場面では，必ず小池氏を右側か左側の横から撮影し，右側から撮るときはスタジオに配置された VTR の〈小泉映像〉，左から撮るときはスタジオの小泉首相の写真が画面に映し出されるようになっている。スタジオの小池氏の背景には常に〈小泉映像〉が存在する設定になっている。また同じ番組で，小池氏が首相の決意や覚悟を語るときには，スタジオの巨大写真の目の超クローズアップとなり，選挙中に改革を訴えたことが理解されたと小池氏が語る場面では，首相が遊説先で大きな身振りで演説したり手を振ったりする VTR 映像が使われている。

「ニュース10」は，オープニングのタイトル自体が「自民党圧勝」であり，３番目のニュー

ス項目の「自民圧勝 与党で３分の２」と続き，繰り返し自民党開票センター，自民党本部での記者会見の時の小泉首相のクローズアップ映像が続く。

「ニュース23」のオープニングは，小泉スーパーマンが国会に空中から激突し国会議事堂を破壊するＣＧで始まる。スタジオでゲストに話を聞くときでも，スタジオに配置されているＶＴＲは繰り返し自民党開票センター，自民党本部での記者会見の時の〈小泉映像〉を流している。

「ニュースジャパン」では，ゲストが今回の選挙を小泉首相の生き方やスタイルが評価されたと語るシーンで，「痛みに耐えてよくがんばった！感動した！おめでとう！」と発言する過去の〈小泉映像〉が挿入される。

小泉首相の目や眉の超クローズアップ映像は，大方の反対を押し切って総選挙を強行した首相の「断固たる決意」を表現しているつもりか。また，開票センターや記者会見でのズームイン，クローズアップの多用は，圧倒的な勝利に導いた首相の存在を誇示しているようにみえる。

総選挙中の〈小泉映像〉は笑顔で支持者に応えるシーン，ジョークを交えた演説シーンが使用されている。ところが，開票時から一転笑顔は消え，引き締まった表情の映像となる。もっとも開票時から小泉首相や党役員の笑顔が消えるというのは，自民党の広報戦略だったのだが，テレビ各局は開票センターや記者会見で首相の表情を視聴者に強調するクローズアップを多用することによって，沈着な姿勢で総選挙結果を重く受け止める小泉首相を映像で構成した。

一方で，各局のどのニュース項目でも小泉首相が取り乱している映像，疲れている表情の映像，服装が乱れている映像などメディアに対して無防備な映像はまったく使用されていない。韓国や中国からの自民党圧勝への批判的な反応を伝えるニュース項目であっても，さっそうと紋付と袴で靖国神社に参拝する小泉首相を映像では流すのである。したがって，ニュースに小泉首相に対して批判的な意味合いが込められていたとしても，映像言語では常にリーダーシップを発揮する指導力のある「完璧な」首相を構成しているので，視聴者は好意的なメッセージとして受け取る可能性が高い。

このように計算された〈小泉映像〉と対照的だったのは，民主党の岡田代表の映像である。たとえば，「今日の出来事」は，次のように岡田民主党の「惨敗」を構成している。オープニングのスタジオに続いて「明暗分かれた小泉劇場」「民主党壊滅的な敗北」というテロップに続いて，投票日前日に「政権交代を」と最後の訴えを行う岡田党首をクローズアップ。かなりの支持者が集まっているが，暗い中しかも上空から撮影しているので暗闇に絶叫しているように見える。一転民主党開票センターへと場面が転換し，疲れ果てた岡田代表の暗い表情をクローズアップ。「もはや民主党政権ができないことが明らか。したがって，代表を辞職する」という会見を終えて，ひとり壇上から去っていく。

「ニュースジャパン」では，民主党の敗北を分析するニュース項目で，小泉首相が応援に行った候補の88.5％，岡田党首が応援した候補は35.2％が当選と対比させて，あたかも両党首の人気が選挙結果につながったかのように構成している。しかし，その小泉首相の人気をつくったのは誰か，という問いかけはまったくなされ

ていない。

９月12日夜のニュース番組でも各局は，相変わらず〈小泉映像〉をちりばめて総選挙報道を放送していた。小泉首相は「最も自覚的にメディア利用を進めた」[4] と指摘されているが，各局の番組では，これだけ好意的な〈小泉映像〉を流し続けたことが有権者の投票行動とどのように関わったのかという問題意識や反省は，まったく見られない。

## ２．女性候補者はどう構成されているか

今回の総選挙で当選した女性議員は43人，2003年の前回総選挙当選女性議員34人を９人，小選挙区制による総選挙が行われた1996年当選女性議員23人を20人上回った[5]。そして，1946年の39人を59年ぶりに更新したと言われている。とはいえ衆議院総定数480人のうちわずか９％に満たない人数であるが，果たして，今回の女性議員の増加は女性の政治参加の前進と評価できるだろうか。

当選した女性議員の党派別人数（％）は，自民党26人（全女性議員の60.1％），民主党７人（16.3），公明党４人（9.3），共産党２人（4.7），社民党２人（4.7），無所属２人（4.7）である。９月12日夜のニュース番組のうちいずれかの局の「まとめのドキュメント」で取り上げられた女性議員は，自民党５人，公明党１人，民主党０，共産党０，社民党３人，無所属２人となっており，ごく一部の女性議員が取り上げられていることが分かる。今回の総選挙報道では数少ない候補者が何度も繰り返し番組で取り上げられることによって，視聴者にあたかもテレビの画面にかつてなく多くの女性候補者が登場したように感じさせた。

**図表５　複数の番組で取り上げた選挙区と政治家**

| 放送局 | | テレ朝系 | 日テレ系 | TBS系 | NHK | フジ系 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番組名 | | 報道ステーション | 今日の出来事 | ニュース23 | ニュース10 | ニュースジャパン | | |
| ドキュメントの時間量 | | 15分56秒 | ７分48秒 | ６分10秒 | ８分36秒 | ３分35秒 | | |
| 選挙区 | | | | | | | 取り上げた政治家（政党） | 当落 |
| | 東京10区 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 小池百合子（自民） | ○ |
| | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 小林興起（新党日本） | × |
| | 岐阜１区 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 野田聖子（元自民／無所属） | ○ |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 佐藤ゆかり（自民党） | ○ |
| | 静岡７区 | ○ | | ○ | ○ | ○ | 片山さつき（自民党） | ○ |
| | | ○ | | ○ | ○ | | 城内実（元自民／無所属） | × |
| | | | | ○ | | | 阿部卓也（民主党） | × |
| | 広島６区 | ○ | ○ | ○ | | ○ | 堀江貴文（無所属） | × |
| | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 亀井静香（元自民党／国民新党） | ○ |
| | 北海道 | ○ | | ○ | | ○ | 鈴木宗男（新党大地） | ○ |
| | 近畿 | ○ | | ○ | | ○ | 辻元清美（社民党） | ○ |
| | | ○ | | ○ | | | 土井たか子（社民党） | × |
| | 京都４区 | ○ | ○ | | | | 田中ひでお（元自民党／無所属） | × |
| | | ○ | ○ | | | | 野中広務（自民党） | — |
| | 愛知４区 | ○ | | | | ○ | 藤野眞紀子（自民党） | ○ |
| | 岐阜４区 | ○ | | | | | 藤井孝男（元自民党） | × |
| | | ○ | | | ○ | | 金子一義（自民党） | ○ |
| | 富山３区 | ○ | | | | ○ | 綿貫民輔（元自民／国民新党） | ○ |
| | 新潟５区 | ○ | | | | ○ | 田中眞紀子（元自民／無所属） | ○ |

複数の局で取り上げられているのは，東京10区／小池百合子氏，岐阜１区／野田聖子氏，佐藤ゆかり氏，静岡７区／片山さつき氏，愛知４区／藤野真紀子氏，近畿ブロック／辻元清美氏，土井たか子氏，新潟５区／田中真紀子氏である（図表５）。小泉首相の指示で自民党は，郵政法案に反対した自民党出身候補者と自民党本部が送り込んだ新人候補の対立をつくり出した。そのような「郵政反対組選挙区」は全国で33あった。ところが，各局は，「まとめのドキュメント」に見るように「郵政反対組選挙区」のなかでも女性候補者がいる選挙区を主として取り上げていることが分かる。なぜ，メディアは女性候補者のいる選挙区ばかりに焦点をあわせたのか。９月12日の夜のニュース番組が女性候補者をどのように構成したかを手がかりにして，それについて考察したい。

９月12日夜のニュース番組では，東京10区／小池百合子氏（全局），岐阜１区／野田聖子氏（全局），佐藤ゆかり氏（「ニュースジャパン」以外の全局），静岡７区／片山さつき氏（「報道ステーション」「ニュース23」「ニュース10」），近畿ブロック／辻元清美氏（「報道ステーション」「ニュース23」「ニュースジャパン」），土井たか子氏（「報道ステーション」「ニュースジャパン」），新潟５区／田中真紀子氏（「報道ステーション」）たちのインタビューを「まとめのドキュメント」で使用している。その際，政治家としての発言を取り上げられているのは，「報道ステーション」の土井たか子氏と田中真紀子氏のインタビューのみである。また，「今日の出来事」にゲストとして招かれている小池百合子氏はスタジオで政治家としての発言をしているが，先にも分析した通り，常に〈小泉映像〉が背景にあるスタジオ設定になっており，あたかも小池氏は小泉首相の代理であるかのように構成されている。

メディアは解散総選挙が決まった直後から小池百合子氏，佐藤ゆかり氏，片山さつき氏などを郵政反対候補に対する「刺客」「くの一」と呼んだ。９月12日の「ニュース23」の「まとめのドキュメント」では，これらの候補者が登場するセグメントには「当落ドキュメント“刺客”（刺客の文字は赤字）選挙区は」というテロップがついており，投開票が終了した後も「刺客」として捉えていることが分かる。

「刺客」とされた女性候補者に対して自民党は，服装，持ち物，しぐさ，態度，発言まで細かく「指導」したとされている。片山さつき氏は候補者に選ばれた時，小泉首相に選ばれたと語っていたが，それが不評となるや自民党の広報戦略に乗って，地元の自民党関係者に土下座，服装，髪型も変えて「本籍も移しました。この静岡７区に骨をうずめます」と語った。佐藤ゆかり氏の「この岐阜に嫁ぐつもりで参りました」というセリフも自民党の広報戦略のなかで作られたが，候補者はそれを忠実に繰り返した。片山さつき氏は元財務省の官僚，佐藤ゆかり氏はアメリカで博士号を取得したエコノミストであると報じられている。しかし，「本籍」「嫁ぐ」などの家父長制を助長する言説を公的に繰り返す姿から，彼女たちにエリート女性としての打算は感じられてもジェンダーの平等や公正という問題意識はまったく感じられない。

にもかかわらず９月12日夜の各局ニュース番組は，自民党の広報戦略にそのまま乗った形で女性候補者を構成して提示していた。例えば，「ニュース10」は佐藤ゆかり氏の「嫁ぐつもり」というインタビューを使っている。さらに，投開票日の翌日，佐藤氏は完璧なメイクアップと

スーツ姿で地元の神社に参拝し神主の太鼓にあわせてかしわ手を打ち神殿に深々とおじぎ，なおかつ絵馬の前でインタビューされている（「報道ステーション」「ニュース23」「今日の出来事」）。「嫁ぐ」という言葉，神社への参拝という行為によって，候補者が保守的な「日本文化」を受け入れ，それに従順であることを提示しているといえるだろう。

小池百合子氏は，今回の選挙では一番早く郵政反対候補に対して出馬が決まった候補者である。彼女は1993年に参議院初当選以来，日本新党，新進党，保守党，自民党と政界再編の中を渡り歩いてきたベテランであり，８月15日の終戦記念日にもあたかも小泉首相の名代のように靖国神社に参拝した政治家である。小池氏を構成する映像は次のような内容である。当選が決まった時，ひたすら笑顔で支持者におじぎをする（「ニュースジャパン」）。神棚を背景に花束を持ち笑顔であいさつし，その傍らには若い男性が付き添う（「ニュース23」「報道ステーション」）。選挙運動中は夏祭りでにこやかに挨拶，支持者の前でカラオケ，商店街で商品の品定め（「今日の出来事」）。女性候補者は政治家としてのキャリアとは無関係に，にこやかさや腰の低さ，日常生活との密着度が評価されたと提示しているといえようか。

また，いずれの女性候補者も男性に支えられているという構図の映像が用いられている。たとえば，野田聖子氏も郵政大臣を務めた人物だが，当選後の会見では郵政法案への姿勢についての質問に対して「私を選んでいただいた皆様がたとしっかり議論して，相談させていただいて方向を決めたいと思います」という発言にまわりの男性支持者からどっと笑いが起こるという映像が使われている（「報道ステーション」）。これは，前後の文脈から考えると，地元に相談せずに郵政法案反対票を投じてお叱りがあったが，今後は勝手に行動しません，という意味だと解釈できる。

自民党の広報戦略としては，女性候補者が選挙に勝利するためには，たとえどれほど有能な女性であれ，「女らしさ」「美しさ」「従順さ」「性別役割分業意識」を前面に押し出して男たちの自尊心をくすぐる戦術が不可欠だと計算したようだ。実際，「刺客」として送り込まれた女性候補者や対立する女性候補者は，明らかに階層社会の上層に位置する人びとであるが，今回の選挙で，いずれも当選あるいは再選を果たすためには従属的なジェンダー役割を演ずることも辞さないしたたかな女性たちだった。テレビはそのような女性たちの行動を何の批判もなく忠実になぞって構成している。テレビもまた女性候補者の従属的なジェンダー役割を強調することが視聴率の獲得につながると考えたのであろう。

かくして，ジェンダーの平等や公正に対する問題意識が候補者の女性たちになく，テレビにもない状況で，画面にどれほど多くの女性候補者が登場しても，それを女性の政治参加の前進と見ることなどとうてい無理というものである。むしろテレビは，家父長制を助長する自民党の広報戦略とそれに沿って行動するエリート女性たちのしたたかさを無批判に提示しており，そうすることで，このような状況を肯定し，強化する役割を果たしたのである。

## Ⅳ．有権者をどう捉えているか

### １．「街の声」の構成

図表６に見るように，９月12日夜のニュース

番組では，「報道ステーション」「今日の出来事」「ニュース23」が，選挙結果について市民の発言をインタビューで取り上げている。市民の声を取り上げるニュース項目は，総選挙報道を取り上げる項目のそれぞれ９番目，８番目，７番目と，番組の終わり近くに置かれている。また，時間量も４分47秒，３分20秒，２分７秒と比較的短い。番組において市民の声を取り上げる位置や時間量からいって，それぞれの番組が市民の声を重視しているとは到底言えないだろう。

**図表６　９月12日夜の各局ニュース番組の総選挙報道における「街の声」：登場人物と支持政党**

| 放送局<br>番組名 | | | テレビ朝日系／<br>報道ステーション | 日本テレビ系／<br>今日の出来事 | TBS系／<br>ニュース23 |
|---|---|---|---|---|---|
| 放送時間 | | | 21：54-23：10 | 22：54-23：40 | 22：54-23：50 |
| 「街の声」放送時間帯と時間量 | | | 22：26：05-22：32：22（CM含む）／４分47秒 | 23：20：00-23：23：00<br>３分20秒 | 23：08：35-23：10：42<br>２分７秒 |
| 「街の声」<br>ニュース項目のタイトル | | | 「選挙で何が起きたのか　東京では若年層ほど自民党」 | 「巨大与党の意味」 | 「街の声」 |
| 登場する市民の政治的態度 | 自民支持／圧勝肯定 | 19人<br>女性13<br>男性６ | ５人<br>女性２（20代／60代）<br>男性３（20代） | ７人<br>女性５（20代２／50代３）<br>男性２（20代） | ７人<br>女性６（20代３／30代１／40代１／50代１）<br>男性１（20代） |
| | 非自民 | 3<br>女性２<br>男性１ | 0 | 0 | 3<br>女性２（50代）<br>男性１（60代） |
| | 不明 | 6<br>女性２<br>男性４ | 1<br>男性１ | 0 | 5<br>女性２（20代）<br>男性３（20代２／40代１） |
| 計 | | 28<br>女性17<br>男性11 | 6<br>（女性２／男性４） | 7<br>（女性５／男性２） | 15<br>（女性10／男性５） |

市民の声の構成は局によって異なっている。「ニュース23」は街行く人の声を一見ランダムに取りあげるスタイルで構成しており，女性10人（そのうち６人が２人連れ），男性５人が登場する。「報道ステーション」「今日の出来事」では，そのニュース項目の意図に沿って市民の声を選びだして構成している。

「選挙で何が起きたのか 東京では若年層ほど自民党」（「報道ステーション」）では，市民のインタビューは解説の峰久和哲朝日新聞社部長の解説を補完するものとして位置づけられており，インタビューされた６人のうち５人が自民党に入れたと答えている。インタビューの他に小泉首相の遊説を聞く人びとや自民党を支持する人びとが「大群衆」の映像で映しだされている。

「今日の出来事」では，インタビューされた７人全員が自民党に投票したと答え，さらに，「自民党の政策をよく知っているか」と質問されて「郵政民営化」以外に知らないと答えている。「今日の出来事」の構成は，市民は自民党の政策をよく知らないで自民党に投票しているが，自民党はマニフェストで「憲法改正」「教育基本法改正」「防衛庁改革」を打ち出していることをナレーションで説明しながら，その間に市民の声を挟み込んでいる。

３局で取り上げられる市民の発言内容から年齢・性別と「自民支持／圧勝肯定」「非自民」「不明」の３点で，政治的姿勢を分析したのが図表６である。このように分類すると，ランダムに声を拾ったように構成している「ニュース23」も「非自民」は15人中わずか３人である。その結果，３局計で28人の市民が登場しているが，そのうち19人（68％）が「自民支持」，3人（10.7％）が「非自民」，６人（21.4％）が「不明」となっている。また，投票率が約70％であるから棄権した人びとも３割はいるのに今回の「街の声」では取り上げていない。あたかも日本中が「自民支持／圧勝肯定」派であるかのように構成されている。また，アジア諸国との関係改善，憲法改正問題や税制，社会保障などの政治課題に言及する市民の声はまったく取り上げられていない。

しかし，得票率を見ると比例区では，自民党（38.2％），公明党（13.3％），民主党（31.0％），共産党（7.3％），社民党（5.5％）となっている。また，今回の自民党圧勝の要因として「全定数の５分の１程度の選挙区の自民党の得票率が前回に比べて7.5ポイント増加しただけで，これだけ大きく変わってしまった」「小選挙区制では１票でも多い方が勝ちという勝者総取りにより，得票率の小さな変化が議席の大きな変動を呼ぶのである」と指摘されている[6)]。つまり，比例区の得票率では自民党と民主党の差は7.2ポイントであるし，小選挙区制ではわずかな得票率の変化が議席の激変をもたらす選挙制度であるということだ。テレビはこのような小選挙区制の特質を抜きにしてあたかも有権者の政党支持構成が自民圧勝をもたらしたかのように構成しているのである。これで，ジャーナリズムの機能を果たしていると言えるだろうか。

## ２．登場する市民とは

登場する市民の発言内容や発言する態度にも各局で共通点がみられる。発言内容を例示してみると，次のような内容である。

〈報道ステーション〉

・民主党が頼りなさそうだったから消去法で自民党に入れました。
・（民主党が）やってくれなかったので，今回は小泉さんに賭けた。
・一発で３分の２で決めてもらったら時間もかからず経済的にもいい。

〈ニュース23〉

・小泉さんて力あるんですねー。
・私なんか無党派層の代表。そんな人にも分かりやすく訴えかけたのかなー。
・政権交代してほしいと思う反面，今がそれほど悪くないからこのままいってほしいと思ったのかなー。
・何回も改革と言うから最後までやらせてみるって感じじゃないですか。

〈今日の出来事〉

・（「自民党に投票した理由」）そんなに深くない。小泉さんがいいなと思って。
・（「郵政以外の公約について」）深くは知らない。
・「私，自民党」「私も」

市民の発言に共通しているのは，あいまいさや主体性のなさである。他人事のように選挙結果や自分自身の投票行動について語っているのである。「今日の出来事」では，インタビューされる市民はすべて曖昧な表情で笑いを浮かべながら，自民党の政策は知らないが自民党に投票したと語っている。

テレビメディアは，市民をこのように主体性がなく，付和雷同的に小泉人気で自民党に投票

している存在として捉えていると言うことだろうか。そのようなテレビであれば，番組のゲストに普通の市民を招いて今回の総選挙について論じてもらうというような企画を発想することすらできなかったのも当然である。しかし，多くの市民は，自民党の圧勝によって外交政策，憲法改正や税制，社会保障などの重要な政治課題の行方について危機感を持っており，自分たちの声が番組には反映されていないと感じていたのではなかったか。

## Ⅴ．まとめと今後の研究課題

本研究ノートでは，９月12日夜のニュース番組の総選挙報道について，民主主義の基本理念に基づく「市民の知る権利に応える公正な報道」という観点から行なっている分析調査の途中経過を報告した。この報告から，現時点で明らかになっているのは次のようなことである。

第１に，投開票日の翌日の報道にも関わらず，ニュース番組では総選挙を取り上げるニュース項目がいずれの局でも放送時間の過半数を占めていたことである。

第２に，スタジオに招くゲストを見ると，５局の内３局が政権政党の中枢にいる政治家を招いて総選挙報道の多くの時間を彼らの発言のために用意していたということである。

第３に，取り上げられる政治家，取り上げられる選挙区にも各局共通して偏りが見られ，自民党と「郵政反対党」および郵政反対無所属議員の対立の構図で選挙を捉えていることが分かった。そして，対立の構図のなかでも，とりわけ女性候補者に焦点をあてて報道している。その女性候補者はジェンダーの平等や公正についての問題意識をまったくもたないまま自民党の広報戦略に即して行動している。しかも，各局の番組は，それを批判することなくそのまま取り上げ，結果として，家父長制に基づく伝統的なジェンダー観を肯定し，強化している。

第４に，2001年総選挙に続いて今回も，小泉首相に対する非常に好意的な〈小泉映像〉が多用され，全局で溢れかえっていたことである。テレビを熟知した首相や自民党の広報戦略に対して無批判に番組を構成することによって，画面には「完璧な」首相イメージが溢れていたが，メディアはそのことがもつ重大な問題をまったく自覚できないでいる。

第５に，取り上げる市民にも偏りが見られ，各番組は，現実の世界における政党支持の実際以上に自民党支持を強調し，自民党の圧勝を肯定する構成になっていた。画面に登場させた市民の意見や態度からみて，テレビメディアは市民を非常に主体性のない受動的な存在として捉えていると言えるだろう。

最後に，この分析調査をさらに進めて行くために必要な研究課題を整理しておきたい。第１に，〈小泉映像〉についてであるが，その分類や時間量について，今後，より詳細な分析が必要である。同じ映像が繰り返し各局で使用されることによって，テレビ画面に「小泉映像」が溢れかえっているが，そのことが何を意味するかをテレビというメディアの特性とあわせて分析を深めていかなければならない。また，分類した個々の〈小泉映像〉についても，その映像が登場する状況や発言内容とかかわって，さらに詳細な分析が必要である。

第２に，女性候補者についても登場する状況や発言内容などをより詳細に分析し，女性候補者が取り上げられていることの意味をジェンダ

ーの公正と公平という観点から追究していく必要がある。このことは，メディアと政治にジェンダーがどのようにかかわっているかを解明するために，また日本社会における民主主義の今後を展望するうえでも，不可欠である。

第３に，市民を取り上げるニュース項目についても，さらなる分析が必要である。市民が登場する状況，発言内容などから，メディアが市民をどのように捉えているかをより詳細に分析することで，ジャーナリズムとしてのテレビのより望ましいあり方を追究していかなければならない。NHK「ニュース10」の選挙結果への反応をどのように位置づけるかも今後の課題である。同様に海外からの反応の分析も必要である。

最近になって，新聞や月刊誌は，自民党の広報戦略が政治の活動を企業コミュニケーションとして捉える「政治マーケティング」の手法にのっとって行われ，「改革」がプロデュースされたことを指摘している[7)]。もっとも「政治マーケティング」は，アメリカなどでは巨大な市場として成立しているビジネス[8)]であるが，メディアが「政治マーケティング」に対してチェック機能を働かせたのか，あるいは無防備であったのかについての検討も，今後の課題である。

さらに，メディア・リテラシー研究の究極の目的はクリティカルな分析にとどまらずクリエイティブにコミュニケーションを創造することだと考えるならば，以上の分析を踏まえた上で，総選挙報道において市民の知る権利に応える公正な報道のあり方や多様な声をどう登場させるかについて，創造性に富む新しい提案を行なうことが求められていると考えられる。

日本の学校教育や社会教育において，市民としての自覚を獲得する市民教育の欠落が指摘されている。選挙は市民権の行使という点でもっとも重要な市民教育の課題の一つである。また，メディア・リテラシー研究が理論研究と実践的研究の２つの柱から成り立っていることを考えると，学校教育や社会教育などで総選挙報道をテーマとしてメディア・リテラシーを学ぶプログラムをどのようにデザインしていくのか，そして，メディア・リテラシーの取り組みが市民教育にどのように寄与するのかを検討することも，今後の大きな課題だと考えられる。

## 注

1）「検証・参院選開票特別番組 テレビはどう『小泉現象』を構成したか」FCT ガゼット No.75 2001.11

2）立命館大学社会学研究科メディア・リテラシー研究プロジェクトの代表者は産業社会学部教授鈴木みどり。研究プロジェクト「9.11総選挙報道と映像ジャーナリズム」研究チームには，社会学研究科博士後期課程のサリー・マクラーレンと本稿の共同執筆者である西村寿子が参加した。

3）「検証・参院選開票特別番組 テレビはどう『小泉現象』を構成したか」FCT ガゼット No.75 2001.11

4）谷藤悦史「衆院選の結果を見て（上）前面に出た首相の『私』」，2005年９月12日，朝日新聞夕刊。

5）2003年11月９日投票の前回の衆議院総選挙では，当選した女性議員の所属政党は次の通りである。自民党９人，民主党15人，公明党４人，共産党２人，社民党３人，無所属１人。

6）蒲島郁夫，菅原啄「2005年総選挙分析―自民党圧勝の構図 地方の刺客が読んだ『都市の蜂起』」（『中央公論』，2005年11月号）

7）鈴木哲夫「特命チーム“情報戦”工作の全貌」（『現代』2005年11月号），石田英敬「政治のメディア戦略 有権者は『市場』なのか」（朝日新聞，2005年11月５日，朝刊）

8）高木徹『ドキュメント 戦争広告代理店―情報操作とボスニア紛争』（講談社，2002年）

# The Role of Television in Elections: An Analysis of the Evening News Programs of September 12th, the Day After the 2005 General Election.

SUZUKI Midori ＊
NISHIMURA Hisako ＊＊

**Abstract**: What role did television play in the general election of September 11th 2005, which resulted in an unprecedented landslide victory for the Liberal Democratic Party? In today's broadcast age, what is the function of journalism set by television? In addition to considering these questions, whether television can truly be considered a journalistic medium will also be investigated. The co-authors of this paper, in conjunction with Ritsumeikan University doctoral student, Sally McLaren and the JAPAN Media Literacy Research Institute (FCT) started a research project on the September 11th general election and broadcast journalism, aimed at analyzing the evening news programs of September 12th, the day after voting took place. The research project is ongoing and this paper is a preliminary report of the analysis results, using a media literacy approach.

In this analysis, fair reporting which is responsive to citizens' right to know can be said to form the basis of journalism. The analysis was conducted mainly focusing on the following three points: 1) How was the election coverage constructed and how much time was used, what were the comments of invited guests and how were politicians and electoral districts selected in each program? 2) How were images of Koizumi and female candidates constructed? 3) How were citizens (voters) treated in the programs? Consequently, in each case it became clear that the general election result reporting, which is important information for those who voted, shows a lack of diversity and a large bias.

Hereafter, it will be necessary to continue examining the following points: 1) Analyzing in more detail the construction of images of Koizumi, female candidates and voters from the perspective of the visual language employed, 2) Clarifying the characteristics of television media and what they mean, 3) Elucidating the role that television played in the general election coverage from the perspective of "fair reporting which is responsive to citizens' right to know". Furthermore, the necessity of transforming the present situation so that television can function effectively as journalism will be thoroughly investigated.

**Keywords**: media literacy, visual language, television journalism, the right to know, fair reporting, the 2005 general election coverage, TV news analysis, Koizumi's Theatre, television images of Koizumi.

---

＊ Professor, Faculty of Social Sciences, Ritsumeikan University
＊＊ Ph.D. Candidate, Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University